

**独立行政法人理化学研究所における  
前理事の業績勘案率について**

平成17年12月8日  
文 部 科 学 省  
独立行政法人評価委員会  
科学技術・学術分科会

独立行政法人理化学研究所（以下「研究所」という。）における前理事の業績勘案率については、「独立行政法人理化学研究所における業績勘案率の基準について」（平成17年4月19日文部科学省独立行政法人評価委員会科学技術・学術分科会決定）に基づき、以下のとおりとする。

1. 在任期間（業績勘案率適用期間）  
平成15年10月1日～平成17年3月31日  
（平成16年1月1日～平成17年3月31日）
2. 「機関実績勘案率 $\alpha$ 」について
  - (1) 機関実績勘案率算出の基準となる年度業務実績評価について  
前理事の業績勘案率の適用期間は、平成16年1月1日～平成17年3月31日であり、機関実績勘案率の算出にあたっては、平成15年度に係る業務実績評価結果及び平成16年度に係る業務実績評価が対象となる。
  - (2) 機関実績勘案率 $\alpha$ の算出
    - ①平成15年度機関実績勘案率  
平成15年度業務実績評価の項目は別添1のとおりであり、前理事が担当した項目別評価の評定の割合は以下のとおりであり、これについて別添3の換算表により評価を行うこととする。

○ 前理事が担当した平成15年度業務実績評価に占める各評定の割合

評 定		項目数	項目別評価における各評定の割合
S	特に優れた実績を上げている	0	0%
A	中期計画を十分に達成する可能性が高い。年度計画を達成。	4	67%
B	十分に達成しているとは言えないが、工夫・努力によって、計画を達成し得ると判断。	2	33%
F	遅れている、または計画を達成し得ない可能性が高い。	0	0%

よって、換算表に照らし平成15年度に係る機関実績勘案率については、0.9とする。

②平成16年度機関実績勘案率

平成16年度業務実績評価の項目は別添2のとおりであり、■■■■理事が担当した項目別評価の評定の割合は以下のとおりであり、これについて別添3の換算表により評価を行うこととする。

○■■■■理事が担当した平成16年度業務実績評価に占める各評定の割合

評 定	項目数	項目別評価における各評定の割合
S	0	0%
A	4	80%
B	1	20%
F	0	0%

よって、換算表に照らし平成16年度に係る機関実績勘案率については、1.0とする。

③機関実績勘案率 $\alpha$

ア) ■■■■前理事の平成15年度及び平成16年度に係る業績勘案率適用期間は、それぞれ3ヶ月、12ヶ月であること。

イ) 平成15年度に係る機関実績勘案率は0.9及び平成16年度に係る機関実績勘案率は1.0であること。

から、

機関実績勘案率 $\alpha$

$$= (15年度機関実績勘案率 \times 15年度に係る業績勘案率適用月数 + 16年度機関実績勘案率 \times 16年度に係る業績勘案率適用月数) / \text{機関実績勘案率適用月数}$$

$$= (0.9 \times 3 + 1.0 \times 12) / 15 = 1.0$$

従って、機関実績勘案率 $\alpha$ は、1.0とする。

3. 「個人業績勘案率 $\beta$ 」について

個人業績勘案率については、研究所の長が行った評定結果を参考として、当分科会において評価を行った結果、1.1とすることとする。(別添4参照)

4. 「業績勘案率 $\varepsilon$ 」の算出

上記、「機関実績勘案率 $\alpha$ 」=1.0、「個人業績勘案率 $\beta$ 」=1.1から、基礎業績勘案率 $\varepsilon'$ は1.0 ( $\varepsilon' = 0.75 \times 1.0 + 0.25 \times 1.1 = 1.03$ )となり、小数点第2位を四捨五入し、1.0となる。

この基礎業績勘案率を基に、■■■■前理事の①在職時に受けた役員報酬に対する法人及び個人の業績の反映状況、②目的積立金の積立状況を勘案した結果、当分科会として業績勘案率 $\varepsilon$ については、1.0とする。

【在職時に受けた役員報酬に対する法人及び個人の業績の反映状況】

■■■■前理事については、役員報酬に対し、業績の反映はなかった。

理化学研究所では、役員の特末特別手当について、「文部科学省独立行政法人評価委員会が行う業績評価の結果を勘案し、その者の職務実績に応じ、理事長がこれを増額し、又は減額することができる。」との規定を役員報酬規程に定めており、当該規定に対する運用基準により、本給及び特別調整手当の月額に $\Delta 20/100$ から $30/100$ の範囲で定めた率を乗じて得た額を増額又は減額できるよう制定している。これを適用した結果、■■■■前理事に対する特末特別手当の増減はなかった。

【目的積立金の積立状況】

■■■■前理事の在職期間には目的積立金の積立実績はなかった。

	評価	担当
I. 国民に対するサービスその他の業務の質の向上に関する事項		
1. 科学技術に関する試験及び研究		
(1) 新たな研究領域を開拓する先導的課題研究		
① 独創的・萌芽的研究の推進	A	
② 先導的・学際的研究の推進		
(ア) 基礎科学研究	A	
(イ) 国際協力研究	A	
(ウ) 放射光科学研究	A	
③ 融合的連携研究		
(ア) フロンティア研究システム	A	
(イ) ものづくり技術情報統合化システム	A	
(2) 社会的要請に基づく重点的プロジェクト研究		
① 脳科学総合研究	S	
② ゲノム科学総合研究	S	
③ 植物科学研究	A	
④ 発生・再生科学総合研究	A	
⑤ 遺伝子多型研究	S	
⑥ 免疫・アレルギー科学総合研究	A	
⑦ バイオリソース関連事業	A	
(3) 上記に加え、総合的研究機関としての特徴を生かすための取り組み		
① 戦略的研究の推進	A	
② 競争的かつ柔軟な研究環境の醸成	A	
③ 最先端の研究基盤の整備・活用	A	
④ 研究者の流動性の向上と任期制研究員の処遇の改善	B	
⑤ 外部機関との研究交流	A	○
2. 成果の普及及びその活用の推進		
(1) 研究成果の情報発信	A	○
(2) 生物遺伝資源の提供	A	○
(3) 研究成果の権利化、適切な維持管理	A	
(4) 研究成果の活用の促進	A	
(5) 広報活動	A	
3. 施設及び設備の共用	A	
4. 研究者及び技術者の育成、及びその資質の向上	A	○
5. 特定放射光施設の共用の促進に関する業務	A	
6. 評価	S	
7. 情報公開	A	
II. 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置		
1. 研究資源配分の効率化	A	
2. 研究資源活用の効率化		
(1) 事業の効率化		
① 調達に関する効率化	A	
② 情報化の推進	B	○
③ 大型施設の運転の効率化	A	
④ 省エネルギー化に向けた効率化	B	
(2) 管理の効率化		
① 管理体制の改革・事務組織の効率化	A	
② 事務処理の定型化等	B	
③ 職員の資質の向上	B	○
III. 予算、収支計画及び資金計画	A	
IV. 短期借入金の限度額	該当なし	
V. 重要な財産の処分・担保の計画	該当なし	
VI. 剰余金の使途	該当なし	
VII. その他		
1. 施設・設備に関する計画	A	
2. 人事に関する計画	A	

S 特に優れた実績を上げている。

A 中期計画を十分に達成する可能性が高い。年度計画を達成。

B 十分に達成しているとは言えないが、工夫・努力によって、計画を達成し得ると判断。

F 遅れている、または計画を達成し得ない可能性が高い。

	評価	担当
I. 国民に対するサービスその他の業務の質の向上に関する事項		
1. 科学技術に関する試験及び研究		
(1) 新たな研究領域を開拓する先導的課題研究		
① 独創的・萌芽的研究の推進	A	
② 先導的・学際的研究の推進		
(ア) 基礎科学研究	A	
(イ) 国際協力研究	A	
(ウ) 放射光科学研究	A	
③ 融合的連携研究	A	
(2) 社会的要請に基づく重点的プロジェクト研究		
① 脳科学総合研究	S	
② ゲノム科学総合研究	A	
③ 植物科学研究	A	
④ 発生・再生科学総合研究	S	
⑤ 遺伝子多型研究	S	
⑥ 免疫・アレルギー科学総合研究	S	
⑦ バイオリソース関連事業	A	
(3) 上記に加え、総合的研究機関としての特徴を生かすための取り組み		
① 戦略的研究の推進	A	
② 競争的かつ柔軟な研究環境の醸成	A	
③ 最先端の研究基盤の整備・活用	A	
④ 研究者の流動性の向上と任期制研究員の処遇の改善	B	
⑤ 外部機関との研究交流	A	○
2. 成果の普及及びその活用の推進		
(1) 研究成果の情報発信	A	○
(2) 研究成果の権利化、適切な維持管理	A	
(3) 研究成果の活用の促進	A	
(4) 広報活動	A	
3. 施設及び設備の共用	A	
4. 研究者及び技術者の育成、及びその資質の向上	A	○
5. 特定放射光施設の共用の促進に関する業務	A	
6. 評価	S	
7. 情報公開	A	
II. 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置		
1. 研究資源配分の効率化	A	
2. 研究資源活用の効率化		
(1) 事業の効率化		
① 調達に関する効率化	A	
② 情報化の推進	A	○
③ 大型施設の運転の効率化	A	
④ 省エネルギー化に向けた効率化	B	
(2) 管理の効率化		
① 管理体制の改革・事務組織の効率化	A	
② 事務処理の定型化等	B	
③ 職員の資質の向上	B	○
III. 予算、収支計画及び資金計画	A	
IV. 短期借入金の限度額	該当なし	
V. 重要な財産の処分・担保の計画	該当なし	
VI. 剰余金の使途	該当なし	
VII. その他		
1. 施設・設備に関する計画	A	
2. 人事に関する計画	A	

S 特に優れた実績を上げている。  
 A 中期計画を十分に達成する可能性が高い。年度計画を達成。  
 B 十分に達成しているとは言えないが、工夫・努力によって、計画を達成し得ると判断。  
 F 遅れている、または計画を達成し得ない可能性が高い。

機関実績勘案率の評価割合に関する換算表

(単位:%)

		項目別評価値					
		S	A	B	F		
機関実績勘案率 $\alpha$	2.0	$S=100$	$A=0, B=0, F=0$				
	1.9	$90 \leq S < 100$	$S+A=100$	$B=0, F=0$			
	1.8	$80 \leq S < 90$					
	1.7	$70 \leq S < 80$					
	1.6	$60 \leq S < 70$					
	1.5	$60 \leq S < 100$	$80 \leq S+A \leq 100$	$0 < B \leq 20$	$F=0$		
		$50 \leq S < 60$		$0 \leq B \leq 20$			
	1.4	$40 \leq S < 50$					
	1.3	$30 \leq S < 40$					
	1.2	$20 \leq S < 30$					
	1.1	$10 \leq S < 20$					
	1.0	$0 \leq S < 10$				$80 \leq S+A \leq 100$	$0 \leq B \leq 20$
		$80 \leq S+A < 100$		$0 < B+F \leq 20$		$0 < F \leq 5$	
	0.9	$0 \leq S+A < 80$	$20 < B+F \leq 40$		$0 \leq F \leq 5$		
	0.8		$40 < B+F \leq 60$				
	0.7		$60 < B+F \leq 80$				
	0.6		$80 < B+F \leq 100$				
	0.5	$0 < S+A+B < 95$			$5 < F \leq 20$		
0.4	$20 < F \leq 40$						
0.3	$40 < F \leq 60$						
0.2	$60 < F \leq 80$						
0.1	$80 < F < 100$						
0.0	$S=0, A=0, B=0$			$F=100$			

別 添 4

独立行政法人理化学研究所における■■■■前理事の  
個人業績勘案率について

平成17年12月8日  
文 部 科 学 省  
独立行政法人評価委員会  
科学技術・学術分科会

独立行政法人理化学研究所における■■■■前理事の個人業績勘案率については、研究所の長が行った評定結果を参考として、当分科会において評価を行った結果、1.1とすることとする。

## 前理事の個人業績勘案率算出調書

氏名	役員在職期間
	平成15年10月1日 理事就任 平成17年3月31日 理事退任

評価期間	平成16年 1月 1日～平成17年3月31日 (在職期間 1年3月)
------	---------------------------------------

評 定	(評価根拠は別添資料のとおり)
-----	-----------------

## 1. 業績目標達成に向けてのリーダーシップ(第1評定項目)

区分	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	分科会決定
	0.0	0.5	1.0	1.5	2.0		
評価項目1				1.5		1.5	1.5
評価項目2			1.0			1.0	1.0
評価項目3			1.0			1.0	1.0
評価項目4				1.5		1.5	1.5
合 計						5.0	5.0
平均点(a)						1.25	1.25

## 2. 業務マネジメント(第2評定項目)

区分	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	分科会決定
	0.0	0.5	1.0	1.5	2.0		
評価項目1				1.5		1.5	1.5
評価項目2			1.0			1.0	1.0
評価項目3			1.0			1.0	1.0
評価項目4				1.5		1.5	1.5
評価項目5			1.0			1.0	1.0
評価項目6			1.0			1.0	1.0
評価項目7			1.0			1.0	1.0
合 計						8.0	8.0
平均点(b)						1.14	1.14



3. 組織・人事マネジメント(第3評定項目)

区分	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	分科会決定
	0.0	0.5	1.0	1.5	2.0		
評価項目1			1.0			1.0	1.0
評価項目2			1.0			1.0	1.0
合計						2.0	2.0
平均点(c)						1.00	1.00

4. 野依イニシアティブ(第4評定項目)

区分	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	計	分科会決定
	0.0	0.5	1.0	1.5	2.0		
評価項目1			1.0			1.0	1.0
評価項目2							
評価項目3							
評価項目4							
評価項目5							
合計						1.0	1.0
平均点(d)						1.00	1.00

**個人業績勘案率の算出**

(第1評定項目平均点(a)+第2評定項目平均点(b)+第3評定項目平均点(c)+第4評定項目平均点(d))÷評定項目数  
(4)=個人業績勘案率

理化学研究所算出

$$((1.25 + 1.14 + 1.00 + 1.00)) / 4$$

=

1.1

科学技術・学術分科会算出

$$((1.25 + 1.14 + 1.00 + 1.00)) / 4$$

=

決定個人勘案率

1.1

平成17年12月8日

## 個人業績調書

機 関 独立行政法人理化学研究所  
役 職 理事  
氏 名 [REDACTED]

在職期間 平成15年10月1日～平成17年3月31日

(業績勘案率適用期間：平成16年1月1日～平成17年3月31日)

独立行政法人理化学研究所（以下「研究所」という。）は、科学技術（人文科学のみに係るものを除く。以下同じ。）に関する試験及び研究等の業務を総合的に行うことにより、科学技術の水準の向上を図ることを目的として設立された。

同人は、平成15年10月1日の独立行政法人理化学研究所設立に当って、引続き理事に就任され、平成17年3月31日まで在任した。

この間、国際協力、研究交流、安全管理、情報基盤業務に関する事項を担当し、独立行政法人となった研究所の基盤形成に尽力すると共に平成16年2月には全理研における研究倫理に関する基本的事項の検討、調整を行なう研究倫理協議会議長として、また、平成17年1月には全理研における実験動物に関する基本的事項の検討、調整を行なう実験動物協議会議長として理研全体の意見を取り纏めるなど研究所の運営に多大な貢献をした。

業績勘案率適用期間である平成16年1月1日から平成17年3月31日までの同人の主な業績は次のとおりである。

#### 1. 業績目標達成に向けてのリーダーシップ（第1評定項目）

##### ○評価項目1（担当部門の業績目標設定）

国際協力委員会委員長として海外との機関間研究協力及び各研究センター等で行っている国際研究協力等の円滑な運営、若手研究者育成制度（基礎科学特別研究員制度及びジュニア・リサーチ・アソシエイト制度）及び若手研究リーダー育成制度（独立主幹研究員制度）等の運営委員長として制度の発展的改善・適正な審査、安全管理部門にあつては、研究倫理協議会議長及び動物実験協議会議長として理研全体の意見の取り纏め、情報基盤研究センターにおいては、オペレーション体制の充実、所内ネットワークの活用など各担当部門の達成すべき業績目標の設定に多大なる貢献をした。

##### ○評価項目2（担当部門の業績目標達成のための経営資源の調達・配分）

アジア諸国との国際協力の一環であるアジア連携大学院制度等の国際協力予算及び若手研究者育成制度並ぶに若手研究管理者育成制度等の予算の充実に努力した。これにより、海外における研究協力先や多くの外国人研究者等に対して理研のイメージを高めると共に若手研究者育成制度の出身者からは大学等の主要なポス

トに新進気鋭の研究者を輩出するなど、研究所の社会的に果たす役割に大きく貢献している。

○評価項目 3 (担当部門の業績目標の管理職層への目標展開)

担当する国際協力部門、研究交流部門、安全管理部門並びに情報基盤研究センターに対して業績目標となる指針を掲げ、各事業を担う幹部職員に適切な指示を与え、全体の取り纏めに強力なリーダーシップを発揮した。

○評価項目 4 (担当部門の業績目標達成のための課題設定)

各担当部門において設定した課題の解決方法などを的確に指示した。特に動物実験協議会議長として、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の改正に伴う動物の輸入届出制度については、理研のみならず、日本の生命科学分野の研究が遅延を招く恐れがあることから理事長名で厚生労働大臣宛要望書を提出した。これにより高度な衛生管理がなされている実験動物(げっ歯類)については、厚生労働省の省令改正が検討されている。

## 2. 業務マネジメント (第2 評定項目)

○評価項目 1 (業務遂行上の情報の共有)

研究倫理協議会議長として、非常に先進的で議論の経緯がわからないと理解が困難であった研究倫理に関する検討会である倫理委員会の議事録の公開内容について、審議を進め、研究の内容、議事詳録(速記録)を基に意見等のやり取りを踏まえた審議の経過、審査結果が明確かつ簡潔に判る議事録とすることを全所的に確立した。これにより研究倫理に対する情報発信力を高めることに成功した。

○評価項目 2 (業務運営と役割分担)

業務運営にあたり、関連部署の部課長等に適切な業務指示を行うとともに、重要な業務については、自ら指導力を発揮し問題処理を行った。特に、研究倫理協議会議長及び動物実験協議会議長として理研全体の意見の取り纏め等に注力した。

○評価項目 3 (財務情報の理解と適切な指示)

収入支出予算等の予算の実態を把握し、国際協力予算の充実及び若手研究者の育成制度予算の充実を理事会等の働きかけ確保してきたことは、海外における理研のイメージアップ及び気鋭の若手研究者の輩出など、研究所の社会的に果たす役割に大きく貢献している。

○評価項目 4 (業務マネジメントの組織内での徹底)

担当する国際協力部門、研究交流部門、安全管理部門並びに情報基盤研究センターに対して、その中期計画の「業務運営の効率化に関する事項」について、適切な目標値を設定・指示した。特に、情報基盤センターにおいては、情報管理にかかるオペレーション体制の充実、研究事業や事務の効率化を図るための所内ネットワークの活用を図るなどの効率化のための指標を定めた。

○評価項目 5 (コンプライアンス (法令遵守))

化学物質全般及びCO<sub>2</sub>等の環境負荷物質の把握、削減等に係るPRTR法、埼玉県生活環境保全条例などの法令の制定及び改正について、安全管理部、総務部、経理部、施設部等の関係部署との総合調整を行い、事業活動に伴う環境負荷の軽減

計画の取り纏めを行い、当該問題について適切な指示を行った。

○評価項目6（危機管理（予防保全））

放射線施設における消防訓練について、従来の年に1施設から重イオン加速器施設及びラジオアイソトープ実験棟の2施設において地元消防署との共同訓練を実施すると共に一般職員に対する「救急処置講習会」の実施を指示・指導し、緊急時の人命救助等に資する要員の養成を行なった。これらは、消火、被災者の救助・搬送等の施設の実情に則した実践的な消防訓練を実現したものである。

○評価項目7（危機管理（事後処理））

図書発表委員長として、図書館の運営、研究論文等研究成果の管理、研究年報等出版物の作成等の業務について、審議を行いより円滑な研究活動の推進を図っていたが、研究成果登録システムにおいて、コンピュータトラブルが発生し、データの一部が消滅する事故が起きた。これに対処するため委員長としてリーダーシップを発揮し、研究成果登録システムの改善等に積極的に取り組み、データの完全復旧を行うなど事後対処に最善を尽くした。

### 3. 組織・人事マネジメント(第3評定項目)

○評価項目1（役員会（または理事会）における活動）

理事会及び所長・センター長会議において、国際協力及び研究交流に関する事項は当然のことながら、研究倫理協議会議長及び動物実験協議会議長の立場からも実務に根ざした建設的で適切な意見を提言し、理事会の活性化を図り、研究所の運営の意思決定機関である理事会の運営に尽力した。

○評価項目2（後進の指導・育成）

担当する国際協力部門、研究交流部門、安全管理部門並びに情報基盤センター等の管理職員に対し、その適正や能力を公正に評価し、それらの者の指導・育成を的確に行なった。

### 4. 野依イニシアティブ（第4評定項目）

○評価項目1（見える理研）

理事長が掲げた5つのイニシアティブのうち、「見える理研」を担当し、研究者の間では著名な理研の活動を研究者の社会（①成果等の論文、学会等での発表、②シンポジウム、国際学会の開催、③国際的に開かれた研究体制など）は、もとより産業界（①地域企業との連携、②共同研究の実施、③国際新技術フェア等での研究成果の紹介、④理研の保有する特許情報の発信など）、さらに進んで一般社会に理研の研究成果を発信し、研究所の内外での存在感を高めるため、担当部門に的確な指示を行い、野依イニシアティブの実施に貢献した。

以上のとおり、同人の業績勘案率適用期間における業績は誠に顕著であり、当研究所としては、研究所の運営に多大な貢献があった判断する。